

# この本を薦めます

学会誌編集委員長 佐々木 葉

第15回



## 松田 光弘

土木学会 100周年事業実行委員会 副幹事長

100周年のための活動に準備段階から長らくかかわってこられた松田さん、というよりも、こよなく音楽を愛し、自らも演奏活動を続けておられる方としてご登場いただきました。

この連載へのご協力を伺ったところ、「お薦めのCDならいくらでもあるのだけれど」と躊躇されましたが、やや強引にお願いして引き受けいただいた。松田さんは小学

の頃からトランペットや合唱に親しみ、中学高校では吹奏楽部、大学ではオーケストラ、現在も4つの楽団に所属して年数回の演奏会に出演される。楽器はホルンとテナーホーン。

ほぼ毎日2時間の練習を欠かさない。

今回は大きな楽器店の書籍コーナーから3冊選んでいただいた。まずはジブリの映画音楽などで有名な久石譲『感動をつくれますか?』。現代の作曲家はとかく難しい曲を書きがちだが、久石氏の曲はメロディーが美しい。その人の創作の背景に興味があったという。歯切れよくスピード感のある文章で、第一印象は大事、世界

観は初めの5分で決まる、いい音楽は譜面も美しい、といった感性の世界で生きる人ならではの語りが続く。しかし理詰りめになりがちな土木の仕事にも通じる点もあるはずだ。



MATSUDA Mitsuhiko

1965年仙台市生まれ。1989年東京大学工学部卒業。同年に(株)建設技術研究所入社後、河川計画、自然環境の部署を経て、現在東京本社地球環境センター長。土木学会100周年に向けて2007年から準備に携わっている。

次いで小松長生

『リーダーシップは「第九」に学べ』これは完全にビジネス書として書かれており、演奏者としても土木技術者としてもなるほどと思うことが多い。例えば、馬は乗り手を見る、兵の将と将の将といった項がある。後者は古市公威の言葉に重ねられよう。合唱を含む交響曲「第九」の演奏にはリハーサルから本番まで究極のリーダーシップが要求される。松田さんに紹介していただいたCDで初めて通して「第九」を聴き、調和と統合というクラシックの底力に改めて感じ入った。

最後の1冊は体を使う演奏者としての目から『アレクサンダー・テクニクの学び方』。20世紀初めにアレクサンダーという人によって体系化された姿勢や体の動かし方に関する手法が、近年注目されているという。演奏とはまさに全身運動であり、緊張せず自然にできるためには体の地図を正確にイメージすることが重要である。本書では骨格や筋肉の図解とともに、スポーツや演奏など多様な場面におけるアドバイスが綴られる。ホルンを吹くには呼吸をはじめ常に体を考える。その体への意識は、仕事でのプレゼンテーションにも通じると松田さんはおっしゃる。

久石譲  
『感動をつくれますか?』  
角川書店

小松長生  
『リーダーシップは「第九」に学べ』  
日本経済新聞出版社

バーバラ・コナブル+ウィリアム・コナブル：著、片桐ユズル+小山千栄：訳  
誠信書房